

■ B F 連盟戦記 9 ヤオモモ・ミッドナイト編

——バトルファック！ それは男女が互いのプライドを懸けて性の技を繰り広げ合う競技である！
そして『B F 連盟』はバトルファックを普及するため日夜ハッスルする組織である！
そんな連盟に、今日は二人の挑戦者がやって来た！

『オーケーイ！ ボーイズ&ガールズ！ P C 筋鍛えてるかーい！ お待ちかね、スペシャルゲストマッチの時間だ！ 今回はかつて我が連盟が「B F 協会」だった頃、激闘を繰り広げた女ヒーローの二人！ 創造ヒーロー「クリエイティ」と18禁ヒーロー「ミッドナイト」が再び挑戦しに来たぞ——！』

「……相変わらず下品なところですね」

「反省の色が見られないわねえ。今度こそ虐めてあげるわあ……いくわよクリエイティ！」

仮免ヒーローのクリエイティこと八百万百、プロヒーローのミッドナイトこと香山睡。

今回はこの二人が地下B F 会場内のリングに上げられる。

実はクリエイティとミッドナイトの二人は過去に連盟と類似した……というか全く同じ組織を相手に淫闘をしたことがあった。

非合法組織「B F 協会」。それは何を隠そう「B F 連盟」の前進組織、つまり同じ団体である。

名や体制などを一新してはいるが、事実上同一組織であり、以前の淫闘で敗北した二人は訓練を重ねてリベンジマッチを挑みに来たのだ。

『ではまず、過去の試合を知らないギャラリーのために前回のダイジェストを公開！』

「っ……！」

『おおおおっ♥♥♥ おおおおおおおお——っっっ♥♥♥

負けるっ♥♥♥ 負けますうっ♥♥♥ わたくしのおまんこっ♥♥♥

ヴィランおちんぽに敗北しますうううっ♥♥♥』

『ふっほおおおおおおおおおおおっ♥♥♥

中出しっ♥♥♥ 中出しグッ♥♥♥

受精っ♥♥♥ イグうおおおおおおおっ♥♥♥

まだイグッ♥♥♥ イッちゃううっ♥♥♥ イグイグイグイグっ♥♥♥

イグッ♥♥♥ イグう——っっ♥♥♥

イグの終わらなひっ♥♥♥ とまらなひのおほおっ♥♥♥

受精えっ♥♥♥ 気持ち良すぎるうっ♥♥♥』

紹介という建前で会場の巨大スクリーンに流されるのは、前回の試合で敗北する瞬間の映像。

実際は最初の紹介通り奮闘しており、特にミッドナイトは勝ってもおかしくない惜敗だったのだが……敗北するシーンだけ流され、何も知らない観客たちは無様な敗北を肴に嘲笑を浴びせてくる。

『いやー、とてもいい勝負だったのですが惜しくも！ 惜しくも両名とも種漬け失神TKO！ しかし着床は免れたようで何よりです！ 今回も名勝負を残してくれることを期待しましょう！』

「……っ」

「顔に出すなら笑顔よ。この後の「名勝負」でこいつらが吠え面かくのをイメージするの♪」

「……はい……！」

「で、今日私たちを愉しませてくれる坊やは誰なのかしら？」

怒りと羞恥で赤くなる八百万。

ポテンシャルは高いがまだまだ若い彼女をミッドナイトが抑える。

『今回はタッグマッチ！ 更に《個性》の使用もアリということで、この二人が選ばれたぞ——！』

「あら、そのって……前に虐めてあげた子かしら？ 復帰できるなんてやるじゃない！」

リングの逆コーナーから出たのは、一見冴えない男と、軽薄そうな少年。

少年とミッドナイトは顔見知りで、ミッドナイトが過去に淫闘で交わったBF選手の一人だ。

結果はもちろんミッドナイトの勝利。再起不能レベルに搾精したのだが、無事に復帰してプロ級になっていたため、そのしぶとさをミッドナイトが皮肉混じりに評価する。

対し少年も陰のある表情となりながら、装着したマスクをかけ直す仕草で皮肉を返す。

【あー、あの時は先生にお世話になったねー。今日はたくさん、お礼させてもらおうか……！】

『おっと、どうもこの二人は過去に因縁がある模様！ 早くも火花が散っている！ ではルール確認でき次第始めてもらうぞ——！』

対戦形式……

『ラウンド制』数分のラウンドと休憩を繰り返してファイトする。精力喪失、失神、降参、判定で決着がつくまで行う。

『タッグマッチ』2 on 2形式での試合。攻守の相手は自由。一人でも続行可能な場合は試合を続けられる。

◆基本ルール……

B F連盟のリング上、連盟側と挑戦者側に分かれた2チームでの対戦。

絶頂や精力が残っているかはリングや会場の快感センサーや審判の判断で判定される。ただし選手の状態によっては続行可能の確認や意思表示が必要。

意思表示には言葉での自己申告の他、自ら行為し続ける、勃起を見せる、ファイティングポーズやピースサインを見せる、などでOK。

リング・会場は連盟が結界を施しており、近寄ると攻撃系の能力が制限・封印される。

◆敗北条件……

精力が尽きる、ダウンから10カウント、失神、降参、ルール違反など。

他、審判が続行不能と判断した場合。

ただし試合を盛り上げるため、挿入や膣内射精、KOが間近、などのタイミングでの降参は無効と判定されることがある。

また、ダウンしても追撃が行われた場合は基本的に10カウントしない。

一度絶頂しても精力が残っていれば続行可能。

◆禁止行為……

凶器の使用。ただし性感攻撃のみが目的の能力や淫具の使用に関しては有効とする。

性交、快感を与える目的やそれに類するもの以外の攻撃的行動。

今回は上記を守る範囲で《個性》が使用可能。

避妊具等の使用については自由。

なお、妊娠をはじめとする、試合中に発生した如何なる事態・被害について、連盟は一切の責任を追わない。

「お二人ともマスクを着けてますね。これでは先生は……」

「《個性》は対策されてると見ていいわね。ま、仕方ないわ。あたしの《個性》は当てにしないで……純粋なテクニックで戦うから。後はあなたが頼みよ、クリエイティ」

少年だけでなく、もう片方の男もコスチュームとしてマスクを着けている。

本来なら問題ない、むしろ男のマスクは一部プレイが制限されてハンデのはずだが、これはミッドナイト対策だろう。

ミッドナイトの《個性》眠り香は香りを放ち、吸引した相手を眠らせるというもの。

非常に強力な反面、マスクで効果を大幅に軽減できてしまう。

今回の《個性》解禁ルールは最初から平等なものではなく、対策することで一方的に有利にするための措置というわけだ。

まあミッドナイトの《個性》は強すぎるから仕方ないね！

(こちらはすぐに済ませて、早く先生のフォローに回らなければ……)

【まあ……よろしくお願いします……】

「キスもクンニもできないんじゃないわあ……そのマスク外さない？」

【外すわけないって。流石にアレはチートすぎだから……睡眠姦マジやめて】

個性も道具もアリのタッグマッチ。互いに準備が終わり対峙し――

『では試合開始――！』

「じゃ、そっちの男はクリエイティに任せて……まずはあたしたちで愉しましょ♪」

【速攻？ だからマスクが……あ……――？！】

『まず動いたのはミッドナイト！ 個性が使えないため不利と見て先手に出たが――連盟代表、動きが鈍い？！ まさかマスク越しにも個性が効いているのか――！』

個性が封じられたかに思えたミッドナイト。しかし組み付いた際、少年の目がとろんと緩む。

手首から個性の力を凝縮させて放出し、マスクの浄化機能すら凌駕して少年の意識を揺るがせたのだ。

強い催眠効果は危険であり、味方を巻き添えにすれば元も子もないため範囲を少年一人のみに絞ってしか使えなかったが、これでミッドナイトは先手を取ることができた。

以前少年を「虐めた」時のように、ロープ際に追い込んで体勢を崩し、不安定な状態にさせるとミッドナイトがしゃがみ、胸を少年の股間に押し当てる。

【ちょ、なん……で……っ】

「プロヒーロー舐めちゃ駄目じゃない♪ 対策の対策くらいしてるわよ♪」

ぎゅむんっ♥

【あ……くそっ！ ウソだろ……うっ♥】

「あたしのパイズリからは逃げられないわよ……坊やも よおく知ってるでしょお……♪」

今回も即行で終わらせてあげるわ♪」

『意識を蕩がせた隙にしゃがみパイズリ！ マスクをつけていても関係なし！ この眠り香コンボは淫闘では強すぎる！ これは連盟代表、ぬかったのでは？！』

早くも有利なポジションを取ったミッドナイト。

対策を練られてなお優位に立つのを見て、八百万も感嘆しつつ動く。

(当てにしないで言いつつ……流石ですわ！ わたくしも……！)

『あ、こちらヒーローが先に動いた！ ヤオモモ、いやクリエイティ、何か取り出した！ これは……オナホール？！』

以前のコスチュームに新しく羽織ったマントの下で《創造》していたのはオナホールとSM鞭。
八百万が受け持つ冴えない男に対し、特殊な鞭をしならせ……その先端に着いたオナホールを股間部に取り
付かせる。

【う……なに、これ……っ！】

「ふふ……わたくし特製オナホールですわ♪」

男はまだ脱いでいないが、服の上からでも快感を与えられているのか、表情を曇らせ……更に八百万がスイッチを入れるとオナホールが激しく振動する。

「少し恥ずかしいのですが……それ、わたくしの手と口内と唾液……それと……」

ぎゅちっ♥ ヴィイイイイツ♥

【っぐ?! あっ! ちょ……!】

「アソコと、そこの分泌液……それに手と腰の動きを再現しますの♪」

『オナホとは思えない、まさに生きているとしか思えない動き! 媚薬っぽいローションもどばどば出てるぞ、
なんだこのオナホは——?!』

八百万が恥じらい仕草で口元を隠すのと違い、オナホールは激しく、優しく、強い刺激と弱い刺激、速い扱
きと緩やかな愛撫、それらを男に与え続け、同時に媚薬とローションも出し、男好みする快感を強制的に叩き
込む。

もちろん恥じらう所作はただの演技。相手の想像力を掻き立てる言葉で心の隙を生み、そこに付け込むため
のポーズだ。

ただ、八百万の身体や体質などを再現している、というのは偽りではないが。

（わたくしも、この日のために訓練を積んできましたのよ……!）

前回は膣内射精による種漬けTKOという、あってはならない事態に陥った八百万とミッドナイト。

再び至闢する時のために、二人は猛特訓をしていた。

特に八百万は汎用性が無限とも言える個性に関して鍛え、自分とミッドナイト、更に評価の高いアダルトグ
ッズなどを研究。

その結果、手や口、性器などの形状、更に興奮作用なども再現させる超高性能淫具が創造可能になっていた。

八百万とミッドナイト双方の特徴、締めりとうねりと肉感を再現した理想のオナホール。

多重構造になっており、スイッチを入れれば内側が八百万の手と膣、外側がミッドナイトの腰使いを再現し、
それぞれが別の動き・別の刺激を与える。

これでも十二分に強力だが、更に媚薬ローションを溢れさせ、繋がったSM鞭でも動かすことで対策不能の
快楽を生み出す。

「どうです？ その……」

【く……そ、離れない……あ！ やば、待て……待っ……】

「ぐちょどろになった、わたくしの……オマンコの前は……♡」

【っ——♡♡】

ゴブ♡♡ ビュルッ♡♡ ドプブ……ッ♡

『細かいが丁寧でいて激しいように見える動き、どれほど……ああっ？！ は、早くも連盟側が射精！ 快感度は浅めだが絶頂させられた——！ いったいどれほどのオナホなのかヤオヨロズホール——？！』

「あはっ♪ もうおちんちん出ちゃいましたの？」

そのオナホールだけでも極めて強力だが、ここに知性と品性を持つ八百万の演技でダメ押し。

エリート雄英生から出る淫猥な台詞、挑発のポーズ。

八百万のイメージとのギャップも効いて効果は驚くほど高く、ダメ押しで済まない興奮を生み出す。

様々なテストを経た結果、現時点でこれに耐えられた男は存在せず——目の前の男も軽くではあるが早々に絶頂に達してしまう。

『これはどういうことだ、前回と全く違うぞ八百万、いやクリエイティ！ もう一人と違い、こちらは何もできずに半イキ——！』

【いや……なにもしてない、わけじゃないし……っ！】

「はうっ！ こ、これは……」

（掌から……低周波パッド？ 物を体内に収納する《個性》……！）

ブブブ……ヴィイイイッ♡

「ああっ！ く、うううっ！」

『いや、こちら淫具を準備していた！ 彼の個性は《収納》！ 隠し持っていたコード付きパッドがクリエイティの股間に張り付いて振動攻撃！ こちらは淫具対決だ——！』

（は、外せない……！ 接着液が使われている？ でしたら除光液を創造、分泌しなければ……）

ヴヴヴヴッ♡

「あはあんっ♡♡」

（複数の媚薬が、コスチューム越しに浸透して……♡ いけませんわ、集中しないと……♡）

まずリードした八百万だが、相手の男も《収納》という個性で体内に淫具を隠していた。

僅かに脚が開いた際にパッドが股間に張り付き、媚薬込みの振動で反撃される。

パッド外周部には接着剤のようなものが使われており、剥がすため除光液を創造しようとするが、快楽でスムーズに行かず苦戦。

守りは内股になって振動を抑えるだけにとどめ、媚薬や拘束具を創造し続けて責めを重視する選択を取る。

『ここでクリエイティ近付いて——』

ぐぼっ♥ ぐぼっ♥ じゅっぽ♥ じゅぶんっ♥♥

【あぐっ！ ふ……ちよ、近……あああ……！】

「ぢゅるるっ♥ んじゅううっ♥ ふふ……乳首、勃起ってますわよ♥ わたくしと、お揃いですわね♥
れるおっ♥ んぢゅるうっ♥」

『オナホ手コキ、乳首舐めと同時に乳首合わせ！ クリエティ、反撃をものともせず責め続ける！ 前と打って変わって積極的な素早い責め！』

素早く間合いを詰め、オナホールを握って扱き立てる。

吐息がかかるほど近付き、男からも反撃で胸が揉まれるが、極端に近付いたため男は片手しか使えない。

八百万は構わず乳首を舐め、揉まれた胸を逆に押し当てて左右の乳首を同時に刺激。

相性がいいのか男は弱々しい声を出し、再び陰茎を震わせる。

『オナホで見えないがセンサーが快感ダメージを感知！ クリエティも感じてはいるが、彼女がイク前に二度目の射精が来てしまうか?!』

ぐぼっ♥ ぐぼ♥ ぐぼぐぼぐぼぐぼおっ♥

「あら♥ またおちんちんが堪え切れませんのね♥

オナホール越しではおちんちんがどうなっているのか分かりにくいのですが……

これ、勃起してますのね♥

いいんですのよ♥ わたくしのオマンコもどきで♥ また無様に無駄撃ちなさい♥」

【うっ！ う……うううううっ！】

ビュルッ♥ ビュッ♥ ビュブッ♥

『ここで再び射精——！ 精力の消耗は控えめだが、これは完全にクリエイティのペース！』

「ああっ♪ 出ますの？ 出ますのねっ♪

情けない量なので見た目には全くわかりませんが♪

くっさい負けちんぽ汁の匂いがしますわぁ♪」

一度目に続き軽く浅い絶頂だが、男が射精。

媚薬とローションで分かりにくいのが、薄っすらと独特の匂いが立ち込めて八百万も確認すると、自分でも驚くほど歓喜と淫乱さに満ちた言葉が溢れてくる。

(いけますわ♥)

【も、もう、本気出す……うっ！】

ぎちっ♥ ずりゅうんっ♥

「きゃっ?! あ♥ そっそこはあっ♥」

『お、代表キレたか? もう一つの淫具を使用! 剥き出しになったクリエイティの股間、いや、アナルに取り付かせた——!』

思い出したように男が八百万のコスチュームを掴み、強引にズラして性器を露出させる。
間合いを詰められてほとんど使えなかった男の片手。
そこからもう一つのパッドを発射し、前の秘唇に次いで後ろの孔に取り付ける。
男も剥き出しになったことでパッドの刺激を強く感じるが、それ以上に後ろのパッドが滑らかに厭らしく蠢き、八百万は思わず声を上げる。

(こ、これは♥ まるで掻き混ぜて、舐めるように♥

この方も、指や舌の動きをトレースさせた淫具を……っ?♥

う、後ろの穴が♥ 舐められ……いけませんっこれはあつ♥♥)

【淫具の扱い、俺のが上なんだよ……! なんだよおい、ケツ穴の方が効いてるなあ?】

「っ♥ ふふ、どうでしょう♥ 確かに、こちらのパッドに比べれば♥

少しは♥ ま、マシ、かもしれませんわ……っ♥」

『これは得意のアナル舐めパッド! 意外に雄英のお嬢様はアナルが弱いのか? 二穴同時責めが効いているのは確かだ!』

(いけませんわ……♥ 後ろが弱いだなんて知られたら♥ 雄英生の恥晒しもいいとこですわっ♥)

猛特訓を積んで、淫具の創造や基本テクニックを磨き、性感而性も鍛えた八百万。

しかし色々と試す内、アナルの感度が高いことが判明したが、こちらはほとんど鍛えられなかったのだ!

もちろん弱点が分かれば、逆に責められないよう意識していたのだが、そこは経験の差。

男の言う通り淫具の扱いに関しては一歩遅れており、器用に尻肉を割って食い付くアナルパッドは振り切れず、下手に抜こうとすれば返しの部分が開いて媚薬が溢れ、アナルの感度を高めた上で更にキツく食い込むようになっている。

【抜けるもんなら、抜いてみろよ! おら……おらっ!】

「くっ♥♥ くふううっ♥♥ 流石はBFプロ選手……♥♥ 面白い機構を、あああっ♥♥」

『クリエティ、今度は前を押さえて怯んだ! ヴァギナの方も効いている!』

「ち、違います……これは……ああんっ♥♥」

またオナホ手コキで責めだした途端、八百万が腰を震わせる。

新たなパッドで責められているにも関わらず股間の前を押さえており、オナホを抜く手も浅い部分で止まる。

『見た目以上に効いたか？ クリエティ、オナホ手コギが緩くなった！』

【あー……もしかして、これ……感覚繋がってる？】

「……ご、ご心配なく♥ わたくしが創造したものは、全て♥」

ぐぶっ♥

「あっ♥ 全て……感覚は、切り離され……」

ぐぼおっ♥

「あああ〜っ♥♥」

『急にクリエイティ仰け反った——！ オナホへの刺激を受けたかのように喘ぐ！ 妙に性能が良かったオナホだが、まさか感覚を繋げていたのか——？！』

【なるほど……高性能だとリスクで、感覚がリンクするってことか……どうりでリアルに締まると思ったよ……っ！】

ぐぶっ♥ ぐぼっ♥ ぢゅぶ……ずぶんっ♥

「あっ♥ ありえませんわっ♥ わたくしが♥ そのようなミスを……おっ♥ 奥♥ あはああっ♥」

八百万の様子から、男はオナホールと八百万の膣の感覚が繋がっていると察し、逆に攻撃的になってオナホールを責める。

筒の中がぐぼぐぼと音を立てるたびに八百万が身体を震わせ、確信すると男は激しくオナホールを使って責めに出る。

『スペックと引き換えのデメリットか？ オナホを扱くごとに八百万が喘ぐ！ オナホ責めが一点、逆オナホ責めの遠隔姦になってしまった！ これで形勢逆転か——！』

ぐぼっ♥ ぐぼっ♥ ぐぼっ♥ ぐぼっ♥

「おっ♥ おやめなさいっ♥ そんなものとお、まんこ……がっ♥ 繋がってるなんて♥

本気で、おほおおおっ♥♥」

『震えて……また背が反り返る！ センサーはしっかりダメージを感知している！』

「くう……っ♥ ま、まだまだイキませんわ……だって……♥」

ごちゅんっ♥

【ひざいいっ？！】

「だって……こちらが圧倒的に有利ですもの♪」

『クリエイティ、オナホを押し込んだあーっ！ しかしオナホの刺激は伝わっていない？ まさか今までののは……』

「全て演技に決まってますわ♥

まさか本気でオナホールとオマンコがリンクしているとお思いでして？」

【いや、だって、センサーが……うううううっ？！】

「それに……」

『全てがフェイクだった？ 本当にこれがあの八百万なのか？ オナホがまた動き出したがこれは——？！』

「時間がかかりますの……おちんちんの形に合わせるのは♪」

ぎちゅううっ♥ ぢゅっぽおっ♥

【か、絡みついへええっ！】

『オナホが激しく振動！ ペニスに合わせて更に形を変えている？！ また激しいオナホ手コキで責め——』

【あっ！ やべ……んああああああつ！】

ビュルッ♥ ビュッ♥ ビュブウウッ♥

『三度目の射精——！ 快感はあったはずだが、クリエイティ完全に騙し切った——！ 緩い射精とはいえ精力はそろそろ危うい！ こちらは八百万が突き放していくのか——？！』

八百万の狙いは力業ではなく、オナホールを更に強化するための時間稼ぎ。

アナル快感を得ているのを誤魔化すためにオナホールへの刺激が膣に伝わっていると見せかけて《個性》を発動し続け、相手に合わせて形状を変えて更なる快感を与えることだった。

男は掌の上で転がされ、冷めた目で見られる屈辱の中で無様に射精する。



八百万が上手く立ち回っている間、ミッドナイトも少年を責め続けていた。

パイズリのまま組み伏せ、マウントに近い形で責め続ける。

少年は力ではミッドナイトを押し返せず、体勢を崩すためか脚を揺らしてもがく。

「無駄よ♪ あなたのフィジカルじゃ、ここから抜け出すことはできない……

大人しくどびゅどびゅしちゃいなさい♪」

ぎゅむんっ♥ ぶるんっ♥ にちゅうんっ♥

【あうっ！ この……っ！】

ずりゅっ♥ ずりゅん♥ ぐりっ♥

「あはっ♪ 脚を震わせて愛撫？ 意外とテクニシャンだけど……そんなんじゃ全然つまらないわ♪」

ぶるうんっ♥ ぎちゅうううっ♥

【ああああつ！】

「若いんだから一発くらいどうってことないんでしょお♪ ほおら、まず一発目……イッちゃいなさい♪」

ぎゅむううううっ♥

【う……っ！ ダメだ、イッ……！】

びくんっ♥ びく……っ♥

『強烈なパイズリに手も足も出ない！ このまま射精——いや、堪えた——！』

（ウソ……今の我慢？ いえ、まさかさっきのは——）

『ミッドナイトのパイズリでも、そう簡単には絶頂しない！ ここから反撃か？』

【ふ——……危なかった。じゃ今度はこっちの番だ♪】

ごりゅんっ♥ どすっ♥

「はうっ？！ それっ、反則……ううううっ♥」

『ここでマン的攻撃！ 浅いが効いているか？ 更に腹パン！ 意外にもリョナ責め反撃でミッドナイトの動きが止まる！』

絶頂させたと確信したミッドナイトだが、ペニスを震えさせながらも少年に耐えられてしまう。

攻撃に意識が向いた隙に再び脚で股間が刺激される。

今度は愛撫というより打撃——ヒザによる「マン的」を受け、続けて腹部を掌で打たれる。

ただ殴る蹴るだけならルール上は反則だが、今回は快感センサーが反応したため反則ではなくリョナ責めと判定。

実際にミッドナイトは予想外の快感ダメージを受け、呻いて体勢を崩したところでパイズリマウントをひっくり返される。

『ここでスィープ！ パイズリマウントから代表がしっかり馬乗りのマウントを取った！ 更に攻撃を続ける——！』

【ほらほら、ちゃんとガードしなよ♪ それともおっぱい殴られるの好きだったり？】

ずむんっ♥ ばちんっ♥ どすっ♥ ずむうんっ♥

「ああっ！ ちょっと、キミっ！ そういうプレイは否定しないけどっ！ も、もっと優しく、おぐうっ♥」

(さっきと同じで、動きが読めないっ？ まさか……)

ずぐうんっ♥

「んはあっ♥ こ、こらっ、大人しくしなさいっ！ ああんっ♥」

『ミッドナイト、為す術もなく胸と腹を殴られまくる！ 上を取られているとはいえプロヒーローにあるまじき防御テクニックの低さだ！ また胸をビンタされて嬌声が出た——！』

(また、虚を突かれた……！ この子が使う個性……《誘導》？)

以前の淫闘では《個性》禁止ルールだったため、互いに個性を使わず、少年の個性を知る機会もなかったが……今の攻防で、ミッドナイトは少年の個性が《誘導》——周囲の人間の意識を瞬時に逸らすことができる類のものだと見抜く。

この個性を使えば、先程のようにイッたと思わせて隙を作ることも可能。

打撃戦では持って来いの能力であり、戦闘経験も身体能力も勝るはずのミッドナイトが一方向的に殴られまくるのも、個性によるフェイントがあるとすれば説明がつく。

(決定力は低いけど……地味に淫闘向きの《個性》じゃない♥ ちゃんと鍛え上げてる♥
けど、これくらいでっ♥)

どす♥ くりっ♥ ぎゅりいっ♥

「はぐううっ♥♥」

(あ♥ 思ったより……ヤバ……♥♥)

また腹を掌で打たれ、乳首も乱暴に摘まみ上げられる。

自ら「18禁ヒーロー」を名乗る、経験豊富なミッドナイト。
大抵の性的刺激には耐性があるが、乱暴な刺激は逆に新鮮に感じてしまう。
少年の《誘導》の効果もあってか、不自然に胸、乳首、腹部、そして子宮に意識が向き……少年がまた両掌
をミッドナイトの下腹部に押し当てる。

【せんせい、「お腹」弱いでしょ？】

どくん……♥

「な、何言ってるの♥ レディのお腹を♥ ぞんざいに扱っちゃ……♥♥」

ずむんっ♥

「かは……っ♥♥ あ……♥♥ ああああ……っ♥♥」

『掌底……いや浸透効に近い？ 体重を乗せた衝撃！ ミッドナイト、子宮で感じたか——？』

浸透効のように内部に響く衝撃を与えられ、「お腹」——子宮にも鈍い刺激が突き刺さる。

子宮を意識させられていたせいゆえ想像以上に快感は大きく、下腹部を守るが今度は胸がガラ空きに。

(今日、ちょっと疼く日だったのに♥ 誘導のせいで、意識抜けてた……♥

し、子宮だけは守って……♥ 早く《眠り香》でリードを——♥)

【やっぱ弱いんだね♪ 必死に守ってるけどおっぱいがノーガードだよ！】

ばちんっ♥ ずばあんっ♥

「おっ♥♥ おっ♥♥ お……♥♥」

コンディションは八百万に合わせたため彼女は好調だが、ミッドナイトは生理周期の都合で若干不調。
疼きやすくなっている子宮が打たれ、下腹部をガードしても身体全体が発熱しているため胸もじわじわと感
じてくる。

「いけません、先生っ……！」

『ここでクリエティ、初めて責めより守りを優先しミッドナイトのフォローに入るが——』

【させないよ！ ほらっ！】

びいんっ♥

「あはあああっ♥♥」

(お、おしりのパッド……♥ 失念していましたわ……♥)

『パッドのコードだけは死守されている！ パッドについたアナルプラグがクリエティの動きを制限！』

(ならば淫具でこちらも——)

びしいっ！

「くうっ！」

『パイプとコードを創造！ しかしこれも収納されていたローターのコードで防がれる！』

「クリエイティ♥ こっちはいいから……ぐほおっ♥」

『なんとと無様なことでしょう！ 女教師 兼女ヒーローが、生徒であり後輩ヒーローの足を引っ張っている！ サポート役として優秀なミッドナイトらしからぬ光景だ——！ このまま乳打撃やリョナ責めでイカされてしまうのか——?!』

ミッドナイトの劣勢を見て、余裕のある八百万がフォローに回ろうとする。

しかしアナルパッドが食い込んでいるのを忘れており、踏み込んだ勢いがそのまま自分のアナルを苛むことに。

八百万の相手も追い詰められたとはいえ余力があり、ローターで妨害しつつコードを引いてパッドの返しの部分で八百万を責め、ミッドナイトはそのまま胸を歪まされて声が艶を帯びてくる。

流れが変わり、ミッドナイトだけでなく八百万までピンチかと思えた時——

カ——ン！

『あーっと、盛り上がって来たところで1ラウンド終了——！』

「ふはっ♥ は……っ♥ い……命拾い、したわね……っ♥」

【え、自分の生徒に迷惑かけといて それはないんじゃないのお?】

「っ……可愛くないわね……♥」

ここでゴングが鳴り、1ラウンド目が終了。

休憩フェイズとなり両者コーナーへと戻るが、少年はその際にもミッドナイトを嘲笑い、離れる際に尻を平手打ち。

【へへ、強がってるけど案外マゾかったね、せんせー♪】

ばちいんっ♥

「ああっ♥ く……っ♥」

「なっ?！ 審判、今のは反則ですわっ!」

『おっと、連盟側が挑発行為！ これは反則です！ 彼には「後ほど連盟側が注意」しておきましょう!』

実力がありながら、卑怯同然のピンポイントな対策や汚い手も平気で使われ、連盟もペナルティを貸すと言いつつ実質放置。

改めてアウェイであると思い知らされながら、ミッドナイトと八百万はコーナーで話し合う。

(今のも《誘導》で気付けなかった……思った以上に厄介だわ♥ 今の内に子宮を鎮めないと……♥)

「八百万さんは大丈夫?」

「ええ、なんとか。ですが、その……これは取れそうにありませんわ……♥」

前に張り付いたパッドは除光液を使ってようやく剥がせたが、後ろの方は反しがついているため抜くに抜けない。

時間をかければ何とかなるが、淫闘中やラウンド間の休憩では難しそうだ。

今は手が離されているが、またコードを握られたら更に刺激が送られるだろう。

相手もオナホールを抜けないようだが、一発逆転されることを考えると慎重に立ち回る必要がある。

頭の中で段取りを組み立てながら、八百万は後ろを隠す。

パッドを刺激しないようレオタードはズラしたままで、塞がれているため穴は見えないが、それでも卑猥に淫具が挿さっているところを見られたくはない。

羞恥心の薄い八百万でさえ恥ずかしそうにするのを見て、ミッドナイトが後ろに立って視線から守る。

「あっちもエグいことするわね……。痛くはない？」

「ええ、なんとか……」

「ならいいけど……やっぱりあたしは不利だけど、マークする相手はこのままで続けましょう。

足止めはできるから、その間に《収納》使いをお願い。

速攻に弱いみたいだけどもスロースターターっぽいから、パッドを引っ張らないように立ち回ってね」

「はい！」

(対策を取られて不利になりながら、しっかり分析してますわ。流石は18禁ヒーロー……。

問題は、こちらですが……………いえ、大丈夫な……はず……♥ こんなもので、感じたりなんて……♥)

(思ったより子宮がヤバイわ……♥

18禁ヒーローとして情けないけど、八百万さんの足を引っ張らないようにしないと……♥)

『休憩フェイズが終了し、第2ラウンド開始！』